

6月6日 AM7:00、松本市県合同庁舎駐車場に参加者3名が集合、MHC専用車に乗り込み出発する。天候は、雲間に青空覗く、いわゆる晴れ模様。国道158号線を一路上高地へ。新緑萌える梓川沿いを走り、1時間ほどで沢渡を経由して上高地へ向かう。上高地での山岳写真展開催のため入園許可をもらっている車の為、入園規制を難なく通過。新釜トンネルを2つ抜けると、展望が開け、左に残雪の焼岳、そして道を大きく右に曲がると、稜線に白雲たなびく穂高岳連峰が望まれる。

釜トンネルから15分ほどで帝国ホテル脇から、公園路に入り、今日の宿アルペンホテルまで進み、建物の背後に車を置き下車する。ほっと一息して、大自然の空気を味わう。見上げる青葉若葉の空に、鳥のさえずる声が響いている。ホテルの支配人に、車の停車の許しを得、今日の宿泊の挨拶をし、早速準備を整え、出発する。

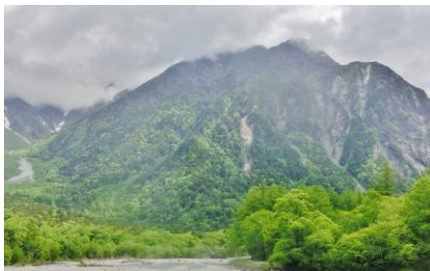


大正池畔からの稜線に雲がたなびく穂高岳

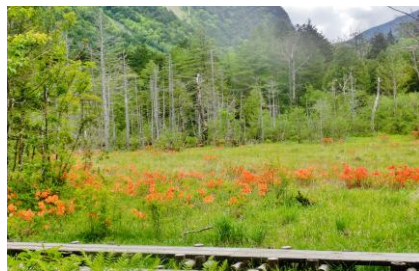


河童橋袂で梓川の飛沫を浴びる参加者。

雪解け水を集めて飛沫を挙げて流れる梓川、その流れに架かる河童橋からは、白雲に覆われた穂高連峰を望む。ここから右岸沿いの林道、また木道を歩き、明神へ向かう。1時間30分ほどで明神に到着。嘉門次小屋の名物、イワナの塩焼きは、長い行列待ちとなっているため、その順番を待つのを諦め、明神橋を渡った対岸で河原の日陰に陣取り、持参した手製のおにぎりの昼食を摂る。河原には、幾組かの同様な人たちも居て、涼風に吹かれながら、おしゃべりしながら食事をしている。



流れる梓川と雲を被った前穂高岳



梓川右岸の木道とレンゲツツジ



イワナ

オスのマガモ

30分程の昼食休憩後、明神館横を通り過ぎ、梓川左岸の林道を小梨平キャンプ場経由で、上高地へ引き返すこととする。この付近、この時期には、ニリンソウが道端に咲き、サンカヨウ、ツバメオモトなど白い花々や、川辺の近く、コバルト色のエゾムラサキ、薄紅色のベニバナイチャクソウが姿を現すはずだが、今年は温暖で花咲く時期が早かったせい、一片の花も見ることができない。以前撮った、この周辺の写真を載せる。



ニリンソウ



ラショウモンカズラ



サンカヨウ



エゾムラサキ



シロバナエンレイソウ



ツバメオモト

林道を歩くと、見上げる残雪の峰々と新緑のみずみずしさ、その間を通過する涼風に、心洗われる気持ちとなる。小梨平を抜け、込み合う河童橋脇を通り、松本ヒマラヤ友好会主催の山岳写真展が開催されている、バスターミナル2F市営食堂の特設会場へ向かう。その開催状況と展示作品のチェックをす

る。作品の固定ピンが外れていないか、いたづらされていないか、などを視察する。いつも監視している食堂支配人は、「外国人や全国のお客さんは、作品を背景に、写真撮影するほど評判が良い」と言っていた。展示作品視察の後、引き返して河童橋を渡り、10分ほどで、対岸に建つアルペンホテルへ向かい、宿泊手続きをする。2Fのベッド式大部屋に、荷を置くと早速、大浴場に行く。たっぷりとした場に浸かり、今日の疲れを癒すことができた。浴場の湯は、上高地に流れる梓川の清水を沸かした、まさに天然湯だ！。湯は透明(?)で、肌にやさしい。



山岳写真展会場の視察・監修



山岳写真展会場の視察・監修



宿泊したアルペンホテル

入浴後、浴衣に着替え、PM6:00からの夕食を摂る。夕食をロビーで待つ間、冷えた瓶ビールで軽く乾杯！。そして、食堂の席に着くと、支配人からワイングラスに注がれた白ワインの差し入れが各人に配られ、いただく。この夜、少し酔いながら心地よい疲れの中、PM9:00前に静かに就寝する。

7日、雲の多い晴れの朝を迎える。朝食後 AM8:30、準備を整え、ホテルに別れを告げて、まず車に乗り込み(?)出発。バスターミナルに向かい、車を停車させ、そこから原生林の中に造られた帝国ホテル専用歩行道に行く。幅2mほどの道で、意外と歩きやすく、歩きだすと不思議に、深山幽谷の世界に入り込んだよう。鳥のさえずる声が林に響き、ウグイスがホーホケキョと鳴き、キビタキがさえずり、オオルリがひときわつやのある声で鳴いている。15分ほどで赤い屋根の大きな帝国ホテルに到着する。



帝国ホテル玄関口にて



赤いレンゲツツジと乗鞍岳



小さい花々が咲くどじょうの池

帝国ホテルでは、古い暖炉脇のソファーに座り、熱いコーヒーを注文する。参加者はここでの立ち寄りが楽しみだったようだ。買い物をしたり、コーヒーの味を楽しんだり、おしゃべりをして過ごす。

今度は、停車していた車に戻り、道を引き返し、158号線の国道を乗鞍岳高原へ向かう。高原の車道を走る車の前方に、いつもなら見える乗鞍岳には厚い雲がたなびき、全貌の姿を望むことができない。一ノ瀬園地に辿り着くと、満開の紅色のレンゲツツジが我々を迎えてくれた。またすぐ近くの、小さな白花が咲くどじょうの池を訪ねる、やっと雪が消えて、温かな春を迎えた乗鞍高原の穏やかな景観に、心癒される思いだ。

一ノ瀬園地で、乗鞍高原の景観を楽しんでいると、早やもうPM12時、昼食の時間だ。そこで、猪谷スキー場ゲレンデ下部付近に建てられた、丸太づくりのレストラン「チロル」で、日本そばの昼食を摂ることとする。乗鞍高原に来ると必ず寄る、なじみの店だ。

レストランのドアを開け、「いつもの」と言って注文すると、今を盛りの山菜によるテンプラが盛り付けられた、大サービスの日本そばの昼食がやって来た。昼食後、レストランにお礼を言って、車に乗車し、一路松本へ向かう。PM3:00、県松本合同庁舎駐車場に到着、解散とした。

「新緑の上高地と乗鞍岳、アルペンホテルでの上高地一晩の思い出、帝国ホテルの熱いコーヒー、レストランチロルの蕎麦の味、何もかも思い出深く余韻の残る山旅ハイキングだった。」